

## 第2章 京阪萱島駅周辺地区における

### 交通バリアフリー推進の必要性と意義

#### 2-1. 京阪萱島駅及び周辺道路のバリアフリー化の状況

##### (1) 京阪萱島駅のバリアフリー施設の整備状況

京阪萱島駅のバリアフリー化の状況についてみると表2-1のようになっています。

本駅は連続立体交差事業により高架化された駅ですが、寝屋川により、東（京都側）改札口と西（大阪側）改札口の2箇所の改札口が設けられており、これら改札口間は駅構内のコンコースで結ばれていません。西改札口からプラットフォームまでは上りエスカレーターが設置されていますが、下りエスカレーターは設置されていません。また、東改札口は、駅前広場から一部中間階まで上りエスカレーターが設置されていますが、プラットフォームまでは階段を利用せざるを得ない状況です。

このように、本駅は、車イス使用者のみならず、高齢者、下肢障害者、視覚障害者などにとって不便な状況にあります。

表2-1 京阪萱島駅のバリアフリー設備の設置状況

チェック項目				設置状況
エレベータ	駅周辺道路～改札			×
	改札～ホーム	大阪方面		×
		京都方面		×
エスカレーター	道路～改札	上り		—
		下り		—
	改札～ホーム	大阪方面	上り	○
			下り	×
		京都方面	上り	○
			下り	×
階段	踏面、蹴上高（標準）			○
車いす対応券売機				○
車いす用自動改札				○
車いす用トイレ				×
車いす用公衆電話				×
公衆ファックス				×
誘導・警告ブロック				○
点字券売機				○
触知図・誘導鈴				△
ホーム列車案内装置				○

○…設置済 △…西改札口に設置、東改札口は未設置

図2-1 京阪萱島駅の出入口や構内の階段やエスカレーター



## (2) アンケート調査やタウンウォッチング調査において指摘を受けた課題

京阪萱島駅周辺地区に居住する高齢者や身体障害者、乳児を有する世帯を対象に実施したアンケート調査の結果から、高齢者、身体障害者等が移動（通行）に際して困っている問題箇所及び経路をみると図2-2のようになります。

また、高齢者や身体障害者、乳児を有する保護者が駅や駅周辺の道路を実際に歩き点検を行ったタウンウォッチング調査において指摘を受けた主要な問題箇所をみると図2-3のようになります。

これらアンケート調査やタウンウォッチング調査において指摘を受けた問題を整理すると次のようになります。

駅の改札口とプラットホーム間は、西改札口からは上りエスカレーターが設置されているだけであり、上下移動が困難である。

駅前広場は、放置自転車が多く、しかも、誘導ブロックの上にも放置自転車があり、通行に支障がある。市道萱島本町1号線に連絡するスロープの勾配がきつい。

市道萱島堀溝線は、車の通行量は結構あるが、歩道が設置されていなく、車の駐車、はみ出し看板、放置自転車、電柱などがあり、通行の障害になっている。また、人の通行帯を区分している白線も薄く消えかかっている。

府道木屋門真線は、大型車などの自動車の通行が多いにもかかわらず歩道が設置されていないため、歩行者が危険である。

市道萱島御幸線や市道萱島本町1号線は、歩道の区分はされているが、狭くて斜めになっており、車イス、ベビーカーなどは通行しにくい。

駅の改札口への通路などに放置自転車が多く、通行の障害になっている。

駅周辺のいずれの交差点においても信号の歩行者用横断時間が短く、また、信号機が見えにくいところもあり、横断がしにくい。また、音声信号が設置されていない交差点もある。

図2-2 高齢者、身体障害者等が移動（通行）に際して困っている問題箇所及び経路図（アンケート調査結果）

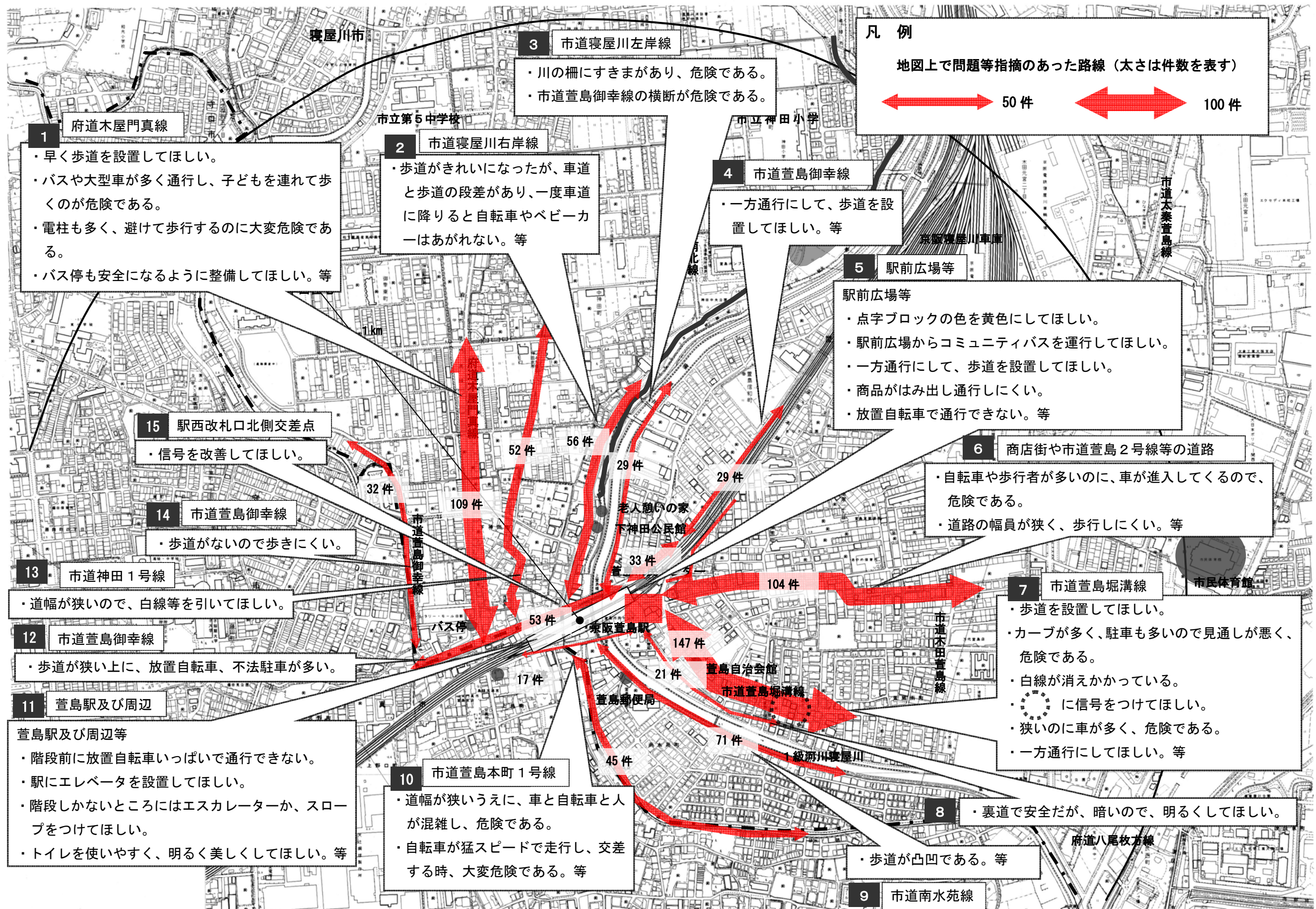
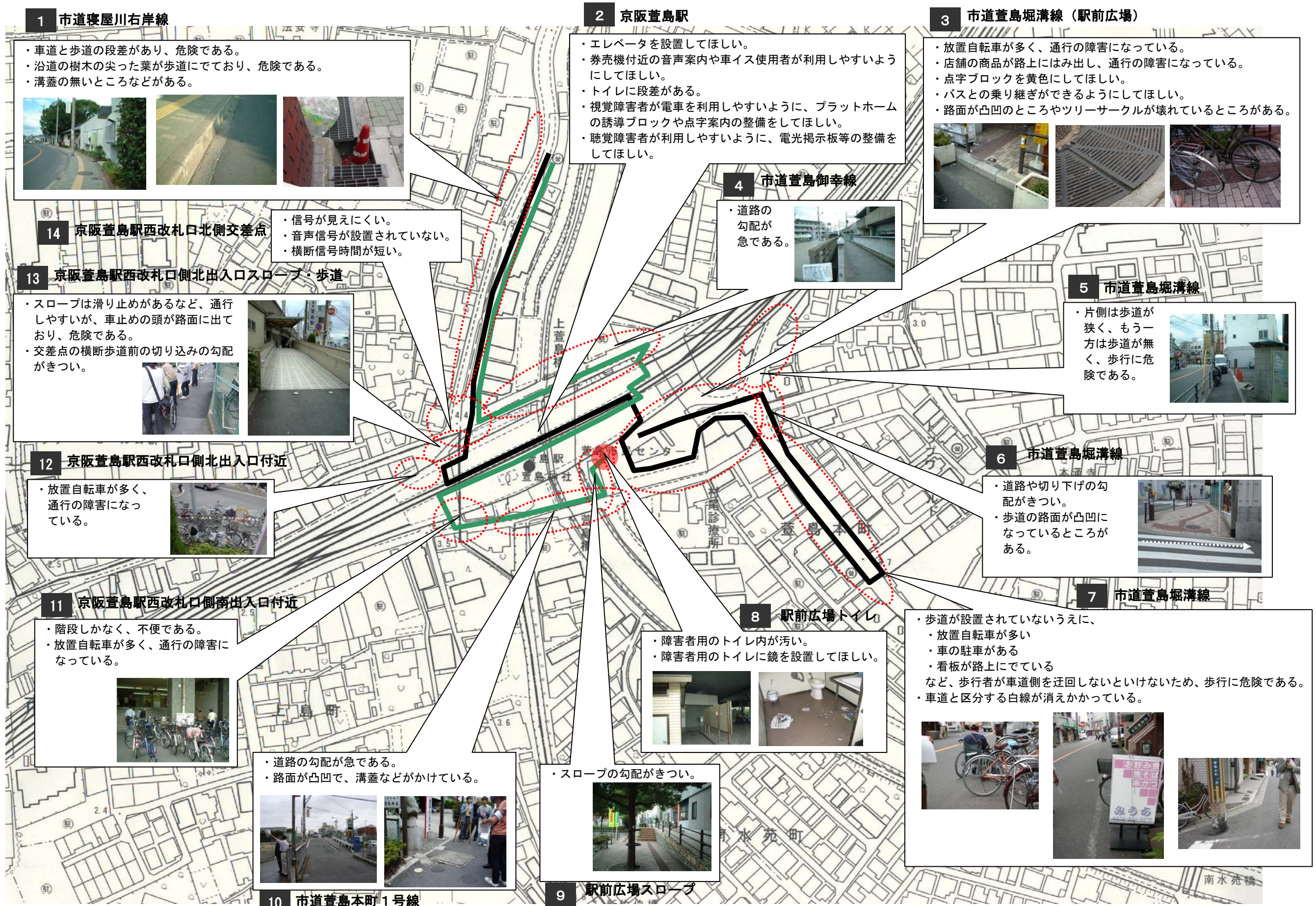


図2-3 タウンウォッチング調査において指摘を受けた主要な問題箇所図



タウンウォッチングコース

Aコース

Bコース

## 2-2. 京阪萱島駅周辺地区における交通バリアフリー推進の必要性

高齢者、身体障害者等が安心して便利に暮らせるよう、市内鉄道4駅(京阪香里園駅、京阪寝屋川市駅、京阪萱島駅、JR東寝屋川駅)を中心に、市民の理解と協力のもとにバリアフリー化を推進していく必要があります。

特に、公共交通機関を利用した移動の円滑化を推進するためには、市内の鉄道4駅すべての旅客施設とその周辺の道路において一体的にバリアフリー化を推進していくことが望まれます。

しかし、国、府及び本市の財政事情や駅周辺のまちづくりの状況、交通バリアフリー法の目標年次等から、すべての駅周辺で同時にバリアフリー化への取り組みを推進することは困難な状況にあります。

このため、本市ではバリアフリー化の取り組みが急がれる地区を中心に、順次、交通バリアフリー基本構想を策定し、バリアフリー化への取り組みを推進していくこととしています。

JR東寝屋川駅及び周辺地区については、すでに平成14年度に交通バリアフリー基本構想を策定し、バリアフリー化への取り組みを進めているところです。

さらに、高齢者、身体障害者等の公共交通機関を利用した移動の円滑化を推進するために、バリアフリー化の取り組みが急がれる京阪萱島駅及び周辺地区について、駅や駅周辺道路のバリアフリー化を推進していくことが必要です。

## 2-3. 京阪萱島駅周辺地区の将来方向と交通バリアフリー推進の意義

寝屋川市の将来像を示す「第四次寝屋川市総合計画―新時代 協働・夢プラン― ふれあいいいきいき元気都市をめざして」では、「市と市民、事業者がともに協働の輪を育て、それぞれが元気を出して活動し、まちの元気を生み、すべての人々に生きる元気を育み広げていくような寝屋川市を創っていくこと」を基本理念に、「ふれあいいいきいき元気都市・寝屋川」を「まちの将来像」として、まちづくりを推進していくこととしています。

「まちの将来像」を実現していくための「まちづくりの基本目標」として、

- ① 元気でいきいき活動できるまちづくり
- ② 安全で安心してらせるまちづくり
- ③ 文化を創造し生きる力を育むまちづくり
- ④ 暮らしを支える活力あるまちづくり

を掲げ、平成22年の人口を概ね25万人と想定して、まちづくりを進めているところです。

また、本市の将来像の実現に向けて、京阪萱島駅周辺地区においては、次のような方向をめざして、まちづくりを進めていくこととしています。

#### 京阪萱島駅周辺のまちづくりの方向

商業機能を高め、寝屋川や駅構内の楠の木などをシンボルとして、本市の南核としての形成をすすめます。

京阪萱島駅周辺地区が本市の南核としての役割を果たしていくためには、市民の暮らしを支え、訪れる人々に対してもやさしいバリアフリーのまちづくりを推進していくことが重要となります。

京阪萱島駅及び周辺地区における交通バリアフリーの推進は、市民や地域に訪れる人々に対し、便利で快適な交流の場を提供していくことが可能となります。

このことにより、高齢者、身体障害者等の公共交通機関を利用した円滑な移動を支援していくとともに、京阪萱島駅及び周辺地区が地域の暮らしの中心として、また、多くの人々の交流の場として、本市の南核の発展を促進する一翼を担うことが果たせるようになります。